水稲生産情報　４月外勤号

令和６年４月１５日
東 地 区 営 農 係

今後、育苗作業が本格化します。
気象庁発表の早期天候情報では、４月下旬にかけて気温が高い予報となっています。
高温時は、クモの巣カビ病や苗立枯病の発生に注意し、きめこまめな温度・水管理が重要となります。
【苗半作】という言葉がある通り、丈夫で強い苗づくりに努めましょう

1. 催　芽　→　芽や根の伸ばしすぎは、播種時に折れ生育遅れの原因となります。

・温度は30～32℃で16～20時間程度行いましょう（ハト胸程度を目安にしましょう）。
・温度が40℃以上になると、発芽能力が低下するので注意しましょう。

2. 播　種　→　適正な播種量にし、丈夫で病気にかかりにくい苗を作りましょう。

・１箱あたり催芽籾で**１２０ｇ程度**にしましょう（厚播きをすると徒長苗やムレ苗などの原因となります）。

3. 床土作り　→　人工培土は乾燥しやすいため、水管理には注意しましょう。

資材名	山土の場合	人工培土の場合
サイコー１１号（肥料）	20ｇ/箱（5 ㎏で 250 枚分）	肥料分が入っているため不要 ※無肥料培土の場合は山土と同様
ナエファイン粉剤（農薬）	８ｇ/箱（１㎏で１２５枚分）	６ｇ/箱（１㎏で１６６枚分）
ナエファイン フロアブル（農薬）	播種時潅注２,０００倍（１ℓ/箱） 緑化期１,０００倍（500 cc/箱）	

4. 置　床　→　育苗箱と土が密着するように、なるべく"たいら"にしましょう。

・置床は育苗箱の底が密着するように均平にしましょう。また、置床の硬さは「耳たぶ」程度に調整しましょう。

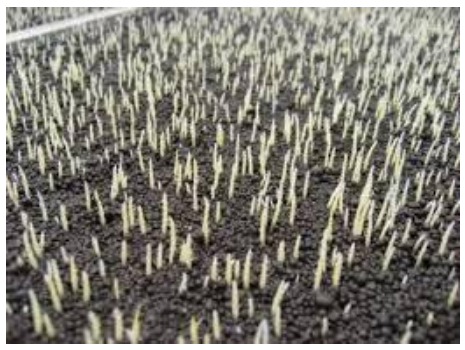
5. 出　芽　→　箱土が乾燥すると出芽が不揃いになり、過湿だとクモの巣カビが出やすくなるので水管理には注意しましょう。

・ハウス育苗では水分保持と保温のためシルバーポリトウなどで平張り被覆し、８割程度（４～６日）の出芽を確認したら速やかに取り除き、日光を当てましょう。

・必ず温度計を設置し、播種から５日間は施設内の日中温度が３５℃以上になる場合は換気を行い、夜間温度が１０℃以下にならないよう、保温に努めましょう。

◎シルバーポリトウをはぐ適期

×剥ぎ遅れ・伸ばしすぎ



健苗育成のポイント　→　水分管理と温度管理で病気に負けない苗を作りましょう。

・播種から 15～20 日後に生育が不安定になりやすくなります！苗は播種後２週間頃に種もみの養分を使い切り、根から吸収する養分のみで体を維持し始めますが、この頃生育が不安定になりやすくなります。そのため、育苗期間中で最も温度管理に気を使い、苗にストレスをかけないようにしましょう！
（1.5 葉期～3.0 葉期まで：日中 25℃以上にならないように、夜間は 5℃以下とならないように管理をしましょう）

・苗代は過湿、ハウスは乾燥に注意！苗代は雨が多くなると水分過多になりがちです。そのため、排水不良にならないよう排水路を整備しておきましょう！また、ハウスは温度が上がりやすいことから、苗箱の水分をこまめにチェックし乾燥しすぎないよう注意しましょう！

◎育苗や薬剤の使用法でご相談のある方は、東地区営農係までお問い合わせください。
ハウスや苗代まで伺います！